2026年度 日本招き猫大賞

【作品タイトル】
「わたしのおうち-アジアのたてもの」

【作者の言葉】
3Dプリンターや AI が創作の世界を席巻するなか、手作りに向き合うにあたりただ実直に手を動かし、なお思考し続けなくてはいけないと思います。
愛猫をはじめ数多の生き物やモノ、コトをよく観察しそれらを化学変化させることで何物にもとらわれないユニークな世界観を創造していきたいと思います。

【作家名】
大谷 望 / オオタニ　ノゾム　（造形作家）

【作品概要】
サイズ：幅 35cm×奥行 30cm×高さ 75cm
素　材：木、石粉粘土、アクリル、水晶

【プロフィール】
福島県生まれ
2014年に愛猫「理希」を迎えてから、本格的に猫の絵画や立体作品を模索し続ける。
福島、宮城、東京で多数個展開催。
ほか各地でグループ展に出展。
フランスの公募展にも出品する。
大阪、兵庫、静岡、仙台で「まるごと猫フェスティバル」に出店。
福島県美術協会会員。

2024年　松山庭園美術館猫ねこ展月刊ギャラリー賞受賞。
2025年　瀬戸市「にっぽん招き猫100人展」入選。
2026年　丸善丸ノ内本店「Catアートフェスタ」出展。
2026年　松山庭園美術館 第23回「猫ねこ展覧会」グランプリ松山庭園美術館大賞受賞。

【受賞理由】

360° どこから観ても見どころがあり、見飽きることがない。木材で造った土台に石粉粘土で造形、彩色してある。

ミャンマーのパゴダ、日本の寺院建築、インドネシアのボロブドゥール寺院、中国寺院の塔、モンゴルのゲル、マレーシアのピンクやブルーのモスク、インドのアジャンター巌窟などなど、アジア世界の代表的な建築を複雑に重層的に重ねた中に猫たちが紛れ込んでいる。ふたつの大きな耳の間、まさに猫の額的な部分に花の咲き乱れる場所があり、猫が無心に寝そべっている。ここが作者のサンクチュアリなのかも知れない。作者は愛猫「理希」に出会ってから猫作品を作り始めたという。

本年愛知県で開催された「第 20 回アジア競技大会 2026」という時事性もあり、アジアのさまざまな建物が融合した大きな猫というモチーフに、人も猫も安心して暮らせる平和を祈念する心が伝わってくる。

【作品写真】

